

5-11

排泄ケアの取り組み

排泄ケアを通しての具体的な個別ケアの実践

トイレでの自然排泄
排泄介助の意識化

とくべつようごろうじんほ こむねりまきんぐす・がーてん
特別養護老人ホーム練馬キングス・ガーデン

ケアワーカー いそべ 磯部ひかり こいずみあいこ 小泉愛子

東京都練馬区早宮2-10-22

TEL : 03-5399-2201

E-mail : webmaster@n-kings.or.jp

FAX : 03-5399-5220

URL : http://www.n-kings.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

キリスト教精神を基盤に平成8年に50床の特養が開設。デイサービス、ショートステイ、訪問介護、地域包括支援センター支所などを併設する高齢者総合施設。

〈取り組んだ課題〉

- 利用者の快適・個別の排泄ケアの取り組み
個々の排泄パターンに合わせた排泄ケア、安眠確保
適切なオムツ選定、漏れ・皮膚トラブルの改善
- 職員の業務効率化
交換の回数を減らし業務の負担を軽減
オムツの重ね使いを減らし、交換時の負担を軽減

〈具体的な取り組み〉

- 昨年春 オムツを新しいメーカー品に切り替え、研修会実施
排泄委員会に業者からアドバイザー参加
尿量について調査（尿量測定）、オムツの種別を選定
栄養士、排便状態の改善のファイバーゼリー試行開始
- 夏 排泄アセスメント表活用、適切なオムツ選び実施
日中トイレ誘導対象者にパンツ+パットで対応
インジケーターで確認、無駄な陰部さらけ出しを防ぐ
先進的取組他施設見学研修実施（10名ほど参加）
排便チェックファイバーゼリーによる効果を確認
下剤調整を医務に相談月頃
3ヶ月経過の職員意識アンケートを実施
- 秋 排泄ケア施設交流会を5施設と持ち情報交換を行う
- 以降 排泄パターンチェック・尿量測定（トイレに測定用器設置）、適切な誘導、交換時間や方法、オムツの種別を選定

〈活動の成果と評価〉

- オムツ→トイレにという流れが出来てきた。
・生活リハビリの一環としてのトイレでの座位の取り方・用具（排泄用座位保持テーブルなど）の工夫
・利用者・介護者双方負担の少ない自立支援トランス方法などへ広がり、ベッド上交換の方がトイレでの自立排泄可能に
- 生活介護全般の個別ケア推進の流れに
・排泄ケアだけにとどまらず、普段の座位の姿勢や適切な車椅子選定、トランス法、個別入浴ケア、食事ケアなどへ波及
- 排泄ケアへの職員の意識が高まった
・例えば、漏れた時すぐに尿量測定をして適切なオムツ選定を行うようになった。
- 排泄ケアの介助が減った
・定時交換の回数 6回→3～5回
- 利用者の安眠確保
・真夜中0時の定時交換がなくなった
- コスト抑制とゴミの削減のための意識が高まった
・パットの重ね使いがなくなった

〈今後の課題〉

- オムツを外していく
- 定時から個別の適時誘導
- 医務と連携し下剤の調整
- 排泄から別の個別ケアへつなげていく
- 目標に向けた計画策定と費用対効果の明確化